

(3) 2021年(令和3年)7月3日 土曜日

国体宇都宮市実行委

宇管工に感謝状贈呈

懸垂幕設置で開催PR

いよいよ一会とちぎ国体
・とちぎ大会宇都宮市実
行委員会が6月28日、2
022年10月に本県で開
催される国体をPRする
懸垂幕の設置に協賛した

宇都宮市管工事業協同組
合(和田均理事長)に感
謝状を贈呈した。本県で
の開催は1980年の栃
の葉国体以来42年ぶり
で、宇都宮市では県内最

多となる14競技18種目で
熱戦が繰り広げられる。
同組合は、市民総参加
で大会を盛り上げるとい
う実行委員会の趣旨に賛
同し、協賛を決定した。



中央生涯学習センターに設置された懸垂幕

県庁と宇都宮市役所を結ぶシンボルロード沿いに立地する市中央生涯学習センター(中央1-1-13)に3月、幅90センチ×長さ20メートルの懸垂幕を設置。周辺道路は交通量が多いことから市民の目に付きやすく、大きなPR効果が見込まれている。

市役所で行われた贈呈式には、同組合から和田理事長と川中子武保専務理事が出席。市からは佐藤栄一市長のほか、国体・障害者スポーツ大会局の桐原弘臣局長、荒井厚文次長が同席した。

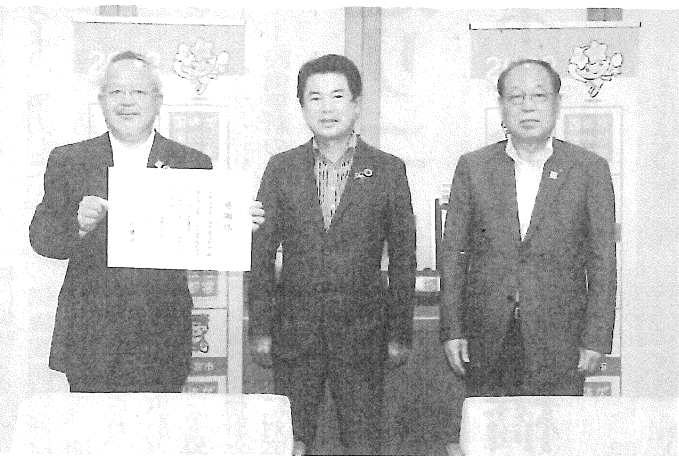
感謝状を贈呈した佐藤市長は「新型コロナウイルス感染症と東京オリンピックばかりが話題に挙がり、来年開かれる国体の認知度はまだ低い。交通量の多い場所に懸垂幕が設置されたことで、こ

れから徐々に認知されてくるのではと期待している」と謝辞を述べた。

また、和田理事長は「機運醸成と組合のイメージアップのため、協賛を申し出た。来訪者へのおもてなしとして、さら

なる協賛も考えている」と意欲を示し、大会の成功を祈念した。

懸垂幕は、国体ならびに全国障害者スポーツ大会閉幕後の22年11月まで設置される予定となっている。



出席者による記念撮影(右が和田理事長)